

十勝岳

○大正火口壁の表面温度分布およびSO<sub>2</sub>放出量

8月26日に望岳台から大正火口および62-I火口周辺の表面温度測定およびSO<sub>2</sub>放出量の遠隔測定を行った。

2006年以降の観測結果と比較して、表面温度分布、放出熱量に際だった変化は認められない。

大正火口北西内壁には上下二筋の温度異常域が分布し、北西外壁の2ヶ所に温度異常域が認められる(図2)。

望岳台からの遠隔測定による二酸化イオウ放出量は、昨年同時期に較べて、やや増加しているように見えるが、昨年、十勝岳東側のトラバース測線で求められた放出量と大差なく、SO<sub>2</sub>放出量が増加傾向にあるとは言えない。なお、今回もトラバース測線で測定を実施したが、噴煙が測線南方に流れていたため有意なシグナルを検出することが出来なかった。

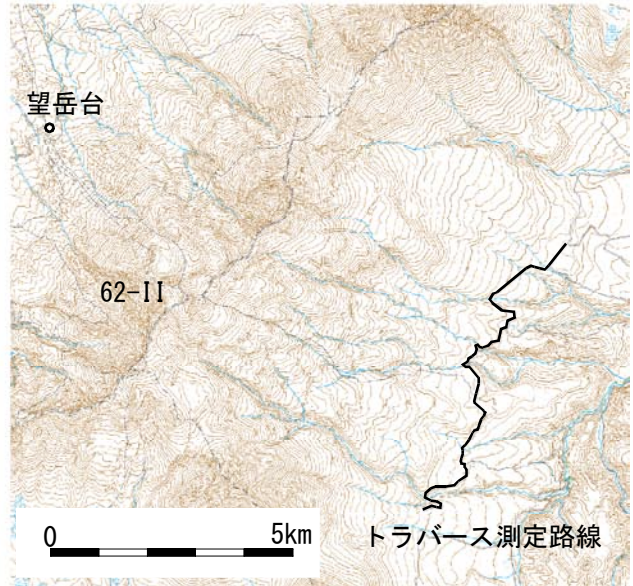


図1. 表面温度・SO<sub>2</sub>放出量の遠隔想定点(望岳台)およびSO<sub>2</sub>放出量トラバース測定路線。

$\epsilon_0$ :1.0 外気温: 9°C 2009年8月26日04時52分

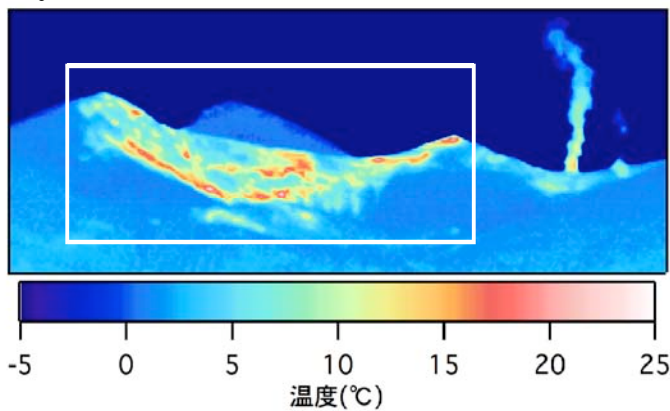


図2. 大正火口および62-I火口壁の表面温度分布. 白枠は表熱量を見積もった領域を示す.

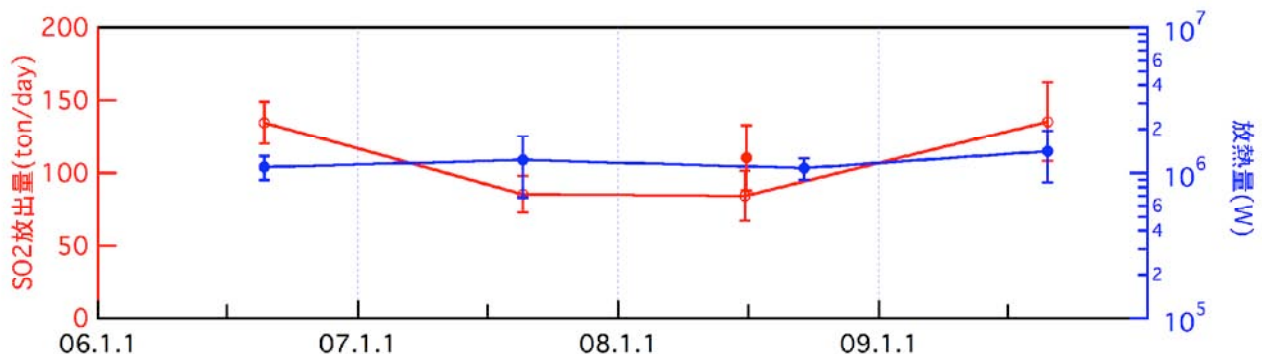


図3. 大正火口からの放熱量(青)およびSO<sub>2</sub>放出量(赤)の経年変化. 赤白丸は望岳台からのパン測定, 赤丸は十勝岳東側でのトラバース測定(大島・前川)

十勝岳